

2-2. 診療科別比較

1. 原価・利益・利益率比較(全診療科)
2. 原価・利益・利益率比較(全診療科)
3. 各原価項目の直課方式・配賦方式利益差(全診療科)
4. 診療科別比較(注射/薬品部分)
5. 診療科別比較(処方/薬品部分)
6. 診療科別配賦vs直課乖離率比較(注射/薬品部分)
7. 診療科別配賦vs直課乖離率比較(処方/薬品部分)
8. 補足(乖離率)

2-2-1. 原価・利益・利益率比較(全診療科)

原価・利益・利益差比較

- 配賦方式では、直課方式に比較して、循環器、消化器、開発センターといった特定の診療科にコストが集中する傾向がある。
- 放射線科は実際は黒字であるが、配賦方式では赤字
- 小児科・呼吸器科・外科の原価の過小評価(利益増加)が顕著

原価比較(直課・配賦)

診療科	直課原価	配賦原価	差(配賦-直課)
循環器科	86,324,452	88,106,358	1,781,906
呼吸器科	53,850,619	52,697,958	(1,152,661)
外科	58,246,170	57,156,302	(1,089,868)
消化器科	48,101,577	49,968,458	1,866,881
開発センター	43,321,002	44,902,412	1,581,410
呼吸器外科	23,373,567	24,140,399	766,832
小児科	30,143,396	28,928,239	(1,215,157)
耳鼻咽喉科	21,733,984	21,008,789	(725,195)
心臓血管外科	24,942,585	24,542,375	(400,210)
泌尿器科	22,235,651	21,509,236	(726,415)
整形外科	18,116,256	18,231,858	115,602
神経内科	14,519,567	14,497,827	(21,740)
脳神経外科	13,098,430	12,887,126	(211,304)
婦人科	17,969,944	17,773,610	(196,334)
救急部	17,220,017	17,154,447	(65,570)
血液内科	12,652,867	12,118,939	(533,928)
内分泌代謝科	13,506,565	13,227,866	(278,699)
精神科	10,204,971	10,089,428	(115,543)
腎臓内科	9,253,161	9,072,140	(181,021)
産科	13,691,692	13,596,802	(94,890)
眼科	13,189,399	13,066,124	(123,275)
膠原病科	7,959,454	7,982,383	22,929
放射線科	6,920,639	7,837,725	917,086
菌科	2,703,233	2,759,211	55,978
皮膚科	1,510,028	1,433,214	(76,814)
麻酔科	805,589	830,185	24,596
形成外科	594,503	605,546	11,043
内科	156,304	155,754	(550)
人間ドック	50,162	115,070	64,908
総計	586,395,784	586,395,784	

2-2-2. 原価・利益・利益率比較(全診療科)

利益比較(直課・配賦)

診療科	直課利益	配賦利益	差(配賦-直課)	直課利益順	配賦利益順
循環器科	12,256,421	10,474,515	(1,781,906)	4	4
呼吸器科	24,145,534	25,298,195	1,152,661	1	1
外科	16,596,462	17,686,330	1,089,868	3	2
消化器科	18,329,251	16,462,370	(1,866,881)	2	3
開発センター	(6,093,285)	(7,674,695)	(1,581,410)	29	29
呼吸器外科	8,831,555	8,064,723	(766,832)	5	5
小児科	2,045,506	3,260,663	1,215,157	16	14
耳鼻咽喉科	5,724,165	6,449,360	725,195	7	6
心臓血管外科	1,250,518	1,650,728	400,210	18	18
泌尿器科	2,951,939	3,678,354	726,415	12	12
整形外科	5,157,071	5,041,469	(115,602)	8	8
神経内科	4,859,526	4,881,266	21,740	9	9
脳神経外科	6,047,553	6,258,857	211,304	6	7
婦人科	128,933	325,267	196,334	24	19
救急部	(1,730,071)	(1,664,501)	65,570	28	28
血液内科	2,757,556	3,291,484	533,928	14	13
内分泌代謝科	1,547,360	1,826,059	278,699	17	17
精神科	3,898,834	4,014,377	115,543	11	11
腎臓内科	3,980,792	4,161,813	181,021	10	10
産科	(1,368,792)	(1,273,902)	94,890	26	26
眼科	(1,516,663)	(1,393,388)	123,275	27	27
膠原病科	2,874,032	2,851,103	(22,929)	13	15
放射線科	321,142	(595,944)	(917,086)	19	25
歯科	2,058,152	2,002,174	(55,978)	15	16
皮膚科	176,396	253,210	76,814	22	20
麻酔科	234,093	209,497	(24,596)	21	22
形成外科	42,929	31,886	(11,043)	25	24
内科	251,081	251,631	550	20	21
人間ドック	133,627	68,719	(64,908)	23	23
総計	115,891,617	115,891,617			

利益率比較(直課・配賦)

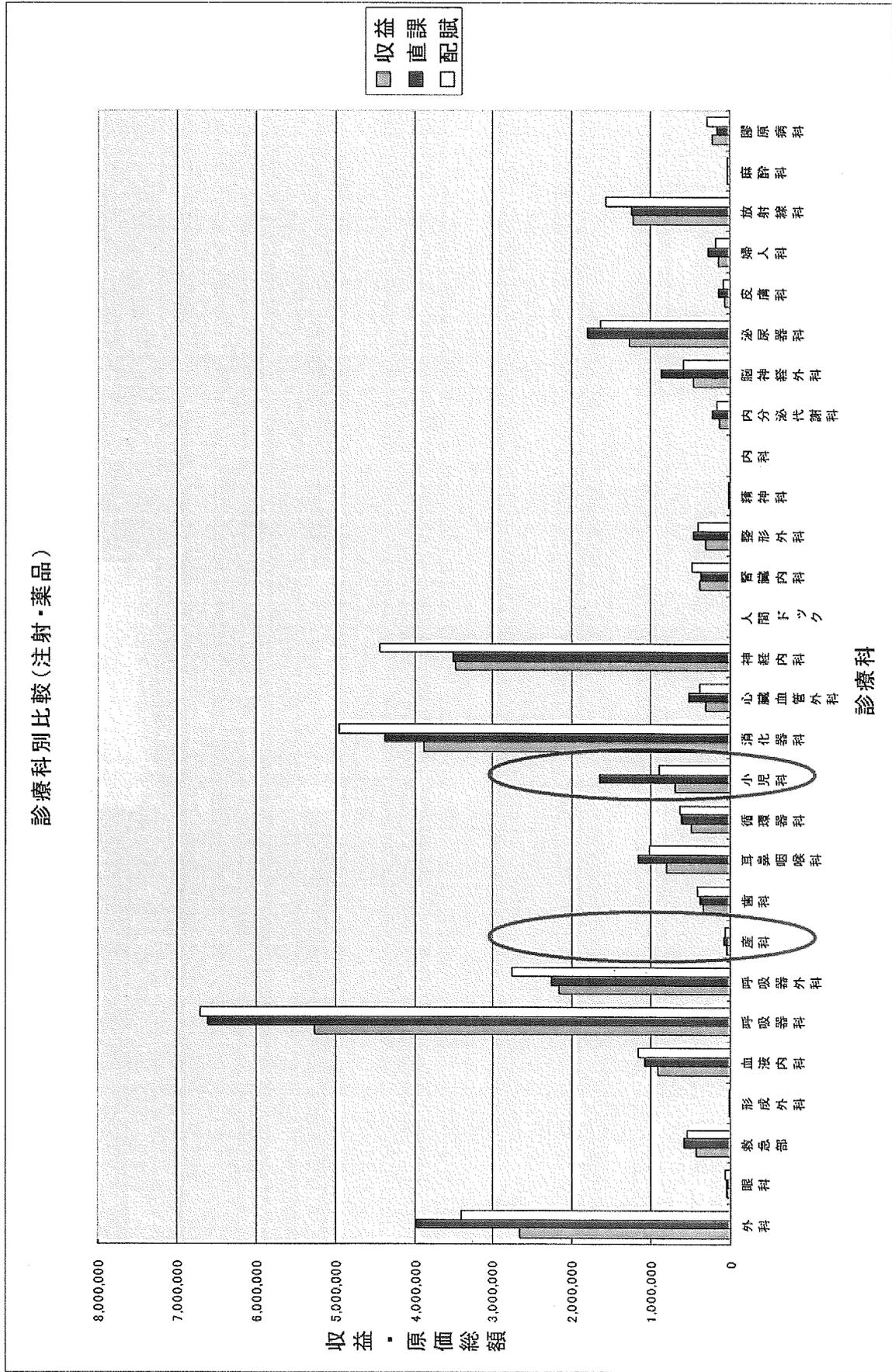
診療科	直課利益率	配賦利益率
循環器科	12	11
呼吸器科	31	32
外科	22	24
消化器科	28	25
開発センター	(16)	(21)
呼吸器外科	27	25
小児科	6	10
耳鼻咽喉科	21	23
心臓血管外科	5	6
泌尿器科	12	15
整形外科	22	22
神経内科	25	25
脳神経外科	32	33
婦人科	1	2
救急部	(11)	(11)
血液内科	18	21
内分泌代謝科	10	12
精神科	28	28
腎臓内科	30	31
産科	(11)	(10)
眼科	(13)	(12)
膠原病科	27	26
放射線科	4	(8)
歯科	43	42
皮膚科	10	15
麻酔科	23	20
形成外科	7	5
内科	62	62
人間ドック	73	37
総計	17	17

2-2-3. 各原価項目の直課方式・配賦方式利益差(全診療科)

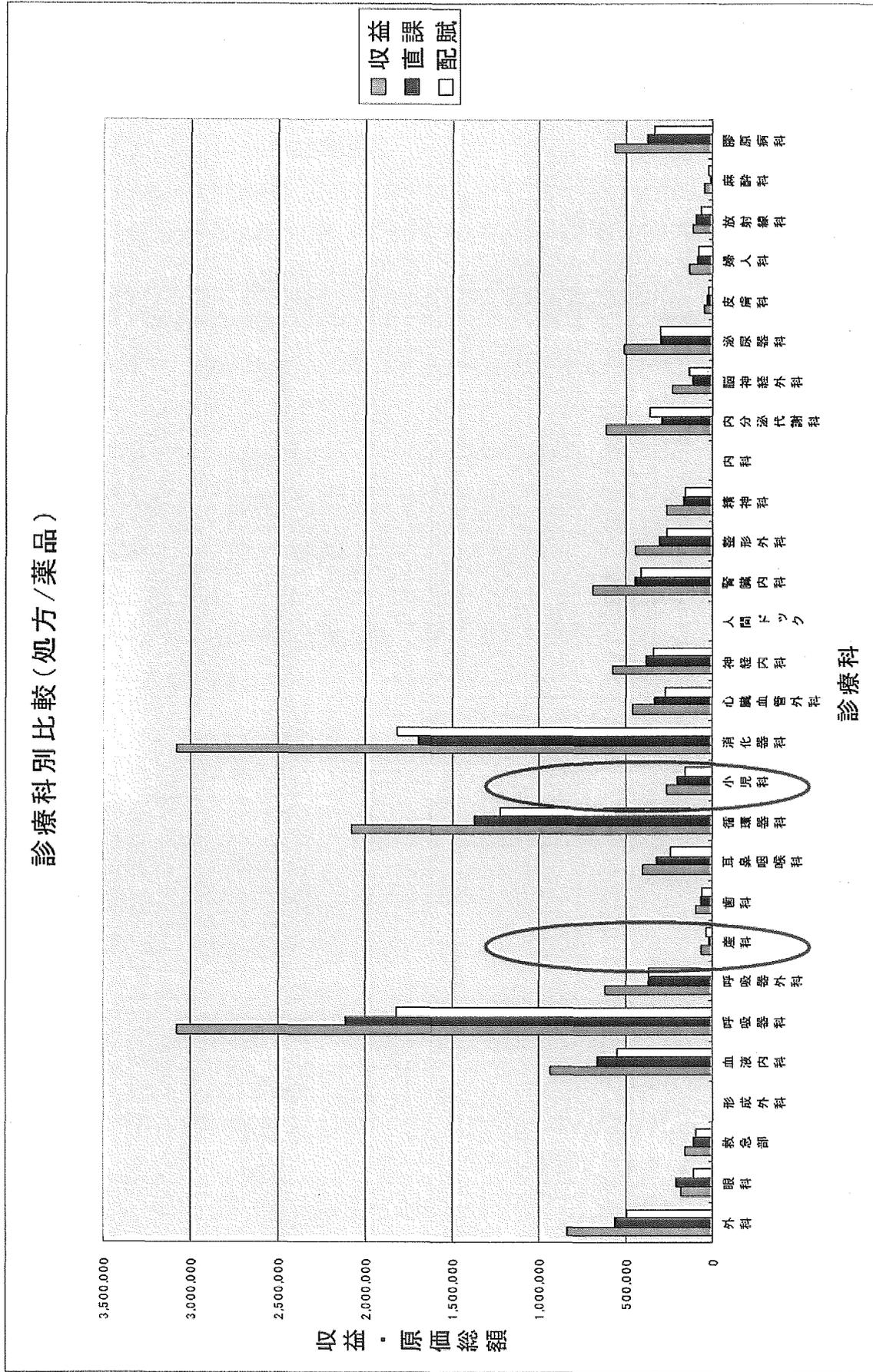
利益差(勘定科目・直課と配賦の差)

診療科	利益差(円)＝配賦方式-直課方式							
	処方	注射	検査(検体)	検査(生理)	検査(病理)			
開発センター	(1,857,801)	187,215	61,967	152	36,921	(9,223)	(642)	(1,581,410)
外科	162,431	638,829	(302,655)	83,333	198,563	515,343	(205,976)	1,089,868
眼科	103,818	(10,335)	(1,457)	(970)	10,957	21,262	0	123,275
救急部	70,124	53,999	(21,132)	(3,881)	3,255	(36,796)	0	65,570
形成外科	419	4,486	0	0	(15,948)	0	0	(11,043)
血液内科	80,287	(74,366)	23,108	(15,266)	209,840	303,271	7,054	533,928
呼吸器科	319,763	(107,311)	425,794	(86,409)	18,602	199,858	382,363	1,152,661
呼吸器外科	65,779	(529,101)	(74,469)	(27,142)	8,263	(207,063)	(3,098)	(766,832)
産科	(6,866)	23,835	9,052	54,912	7,002	6,954	0	94,890
歯科	29,662	(26,897)	821	60	(20,104)	(39,520)	0	(55,978)
耳鼻咽喉科	123,926	173,466	15,191	33,023	(41,710)	421,300	0	725,195
循環器科	248,007	29,018	(104,884)	(112,734)	46,555	(1,887,868)	0	(1,781,906)
小児科	213,878	804,157	248,850	(43,877)	0	(7,851)	0	1,215,157
消化器科	(134,451)	(553,711)	(252,359)	105,349	(327,943)	(484,371)	(219,395)	(1,866,881)
心臓血管外科	102,981	157,290	(86,499)	(11,461)	21,946	192,227	23,725	400,210
神経内科	91,760	(962,836)	(3,382)	96,824	18,559	780,814	0	21,740
人間ドック	0	0	0	(19,430)	414	(30,644)	(15,249)	(64,908)
腎臓内科	67,929	(97,607)	7,067	(11,573)	79,268	119,294	16,643	181,021
整形外科	57,357	79,706	(45,996)	(10,007)	(47,445)	(149,217)	0	(115,602)
精神科	118,354	5,700	(32,198)	(13,465)	0	37,152	0	115,543
内科	550	0	0	0	0	0	0	550
内分泌代謝科	(25,216)	54,767	101,895	(25,229)	15,004	144,485	12,992	278,699
脳神経外科	20,299	283,466	(17,868)	(6,062)	(57,874)	(10,657)	0	211,304
泌尿器科	24,826	170,290	2,037	12,448	(140,038)	656,852	0	726,415
皮膚科	13,499	64,177	9,422	(7,293)	0	(2,991)	0	76,814
婦人科	37,351	98,846	11,358	40,683	(110,875)	118,971	0	196,334
放射線科	24,100	(338,844)	1,856	(19,125)	68,491	(653,564)	0	(917,086)
麻酔科	(16,611)	651	(2,255)	(970)	0	(5,411)	0	(24,596)
膠原病科	63,842	(128,891)	26,738	(11,891)	18,300	7,392	1,581	(22,929)

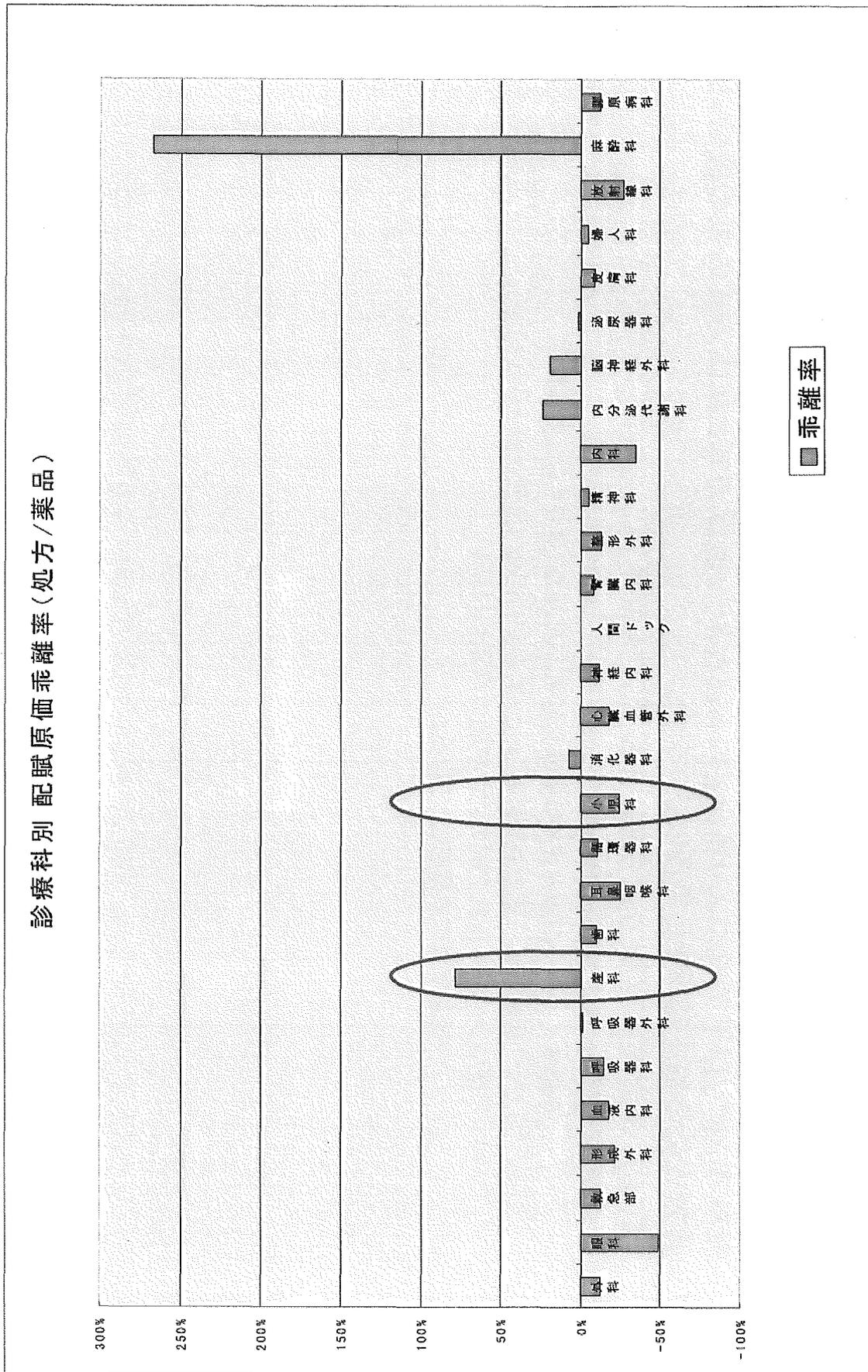
2-2-4. 診療科別比較(注射/薬品部分)



2-2-5. 診療科別比較(処方/薬品部分)



2-2-7. 診療科別配賦vs直課乖離率比較(処方/薬品部分)



2-2-8. 補足(乖離率)

■ 乖離率

- 乖離率とは、以下の式により算出される値となり、直課方式と配賦方式の差の度合いを直課方式の金額を基準として表しています。

(配賦方式金額－直課方式金額)／直課方式金額

➤ 例:診療科の原価集計比較の場合

- ◇ 乖離率<0%・・・配賦方式では実際の原価よりも少なく見積もられている
 - ✓ 他診療科へ原価を乗せることで、本来よりも少なく原価が計上されている。
- ◇ 乖離率>0%・・・配賦方式の方が実際の原価よりも高い
 - ✓ 他診療科の原価を被っている。

2-3. 小兒科詳細分析(原価・利益・利益率・利益群、年齡群、年齡群、在院日数)

1. 原価比較(小兒科)
2. 利益・利益率比較(小兒科)
3. 疾患群別比較(ICD10大分類)
4. 在院日数別比較

2-3-1. 原価比較(小児科)

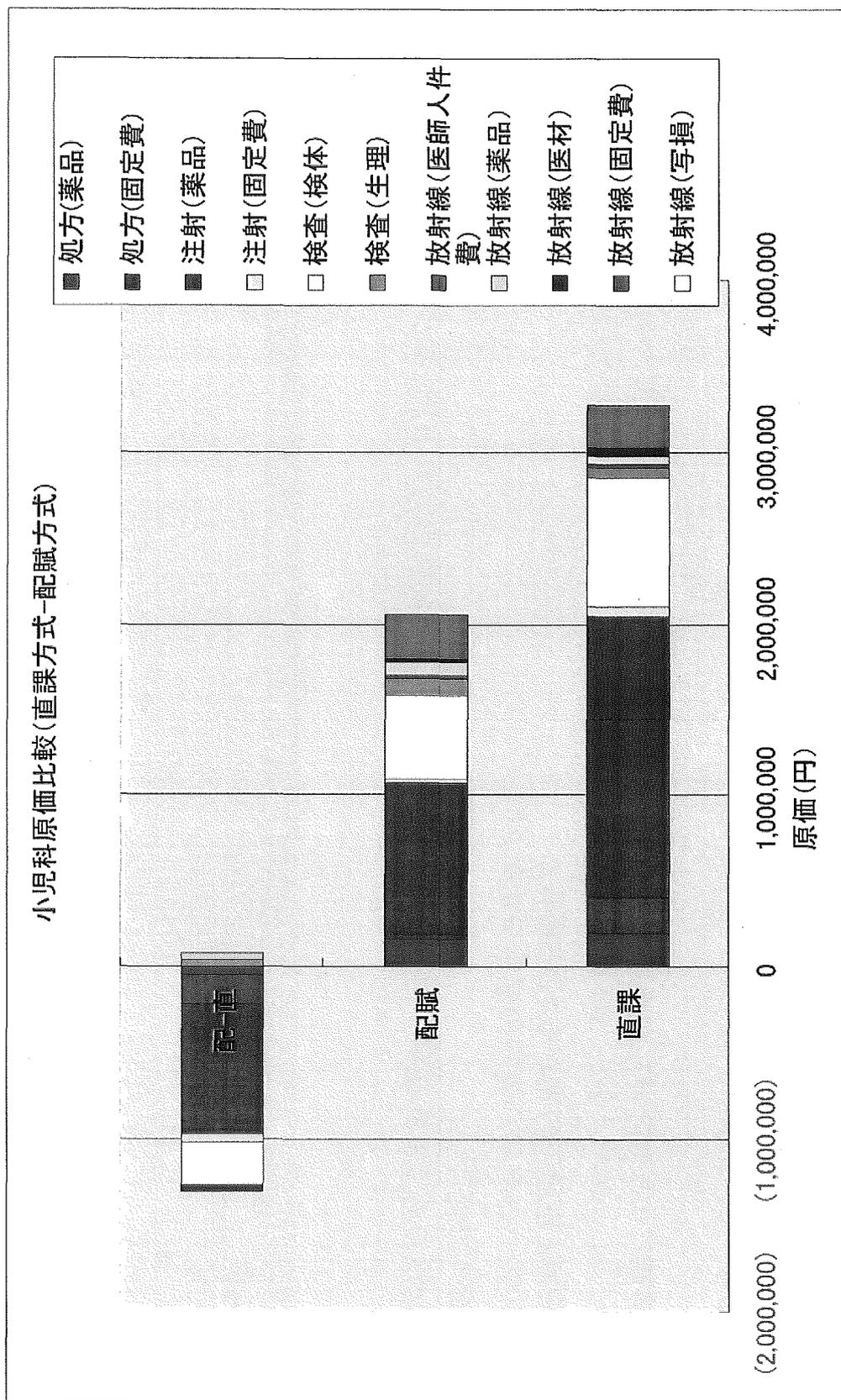
- 全体の特徴
 - 処方、注射、検体検査の原価差異が顕著。
 - 配賦方式では全体的に実際の原価(直課方式)よりも少なく按分される傾向がある。
- 処方
 - 固定費の差異が顕著
- 注射
 - 配賦方式による薬品費の差異が最も顕著(-753,508円・-46%)

診療科	処方			注射			検査			放射線			原価総計
	方式	薬品	固定費	薬品	固定費	検体	生理	医師	薬品	医材	固定費	写損	
小児科	直課	204,474	197,439	1,640,458	64,913	746,752	55,654	18,640	49,090	49,028	248,051	258	30,143,396
	配賦	155,698	32,336	886,950	14,264	497,902	99,531	10,868	83,480	23,812	254,750	7	28,928,239
	配-直	(48,776)	(165,103)	(753,508)	(50,649)	(248,850)	(43,877)	(7,772)	(34,390)	(25,216)	6,699	(251)	(1,215,157)
	乖離率	-24%	-84%	-46%	-78%	-33%	79%	-42%	70%	-51%	3%	-97%	-4%

直課方式と配賦方式による勘定科目別原価比較(小児科)(単位:円)

*病理検査・内視鏡は収支0により、病棟経費、手術、麻酔、処置、看護人件費は配賦対象外項目のため除外

2-3-1. 原価比較(小児科)



2-3-2. 利益・利益率比較(小児科)

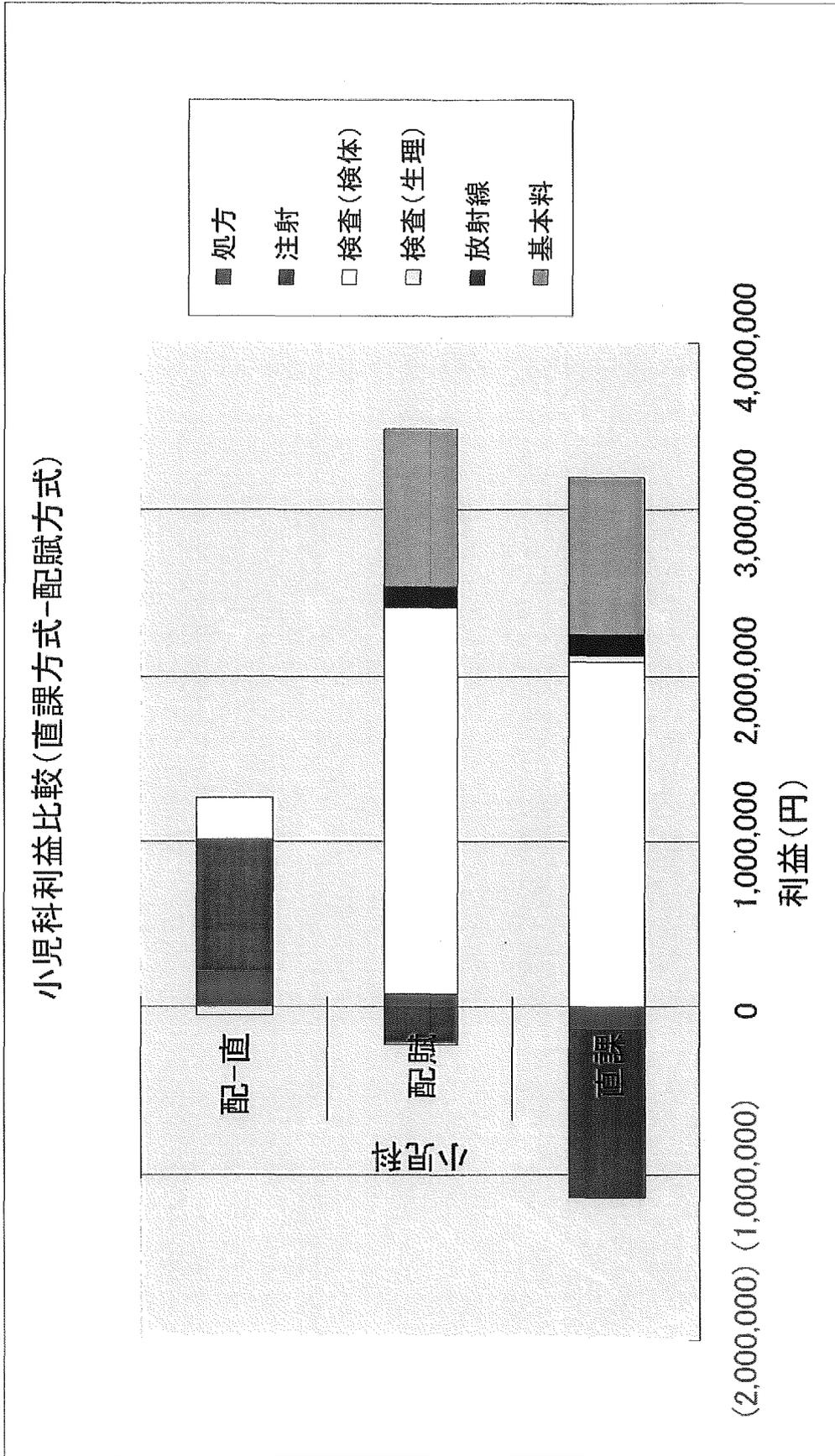
- 全体の特徴
 - 配賦方式では直課方式と比較して利益が高くなる傾向にあり、特に、注射・処方・検査の利益上昇(損失減少)が顕著である。
 - 配賦方式では総利益が大きく上昇している。
- 処方
 - 直課による処方利益が赤字であるのに対し、配賦方式では黒字となっている。
- 注射
 - 配賦と直課での差がもつとも顕著。
 - 配賦での赤字が直課の赤字分の約2割。
- 総利益・利益率
 - 配賦方式では利益率が10%を超え、直課方式による利益の約1.5倍となっている。

診療科	方式	処方	注射	検査(検体)	検査(生理)	放射線	基本料	総利益	利益率
小児科	直課	(137,985)	(1,010,072)	2,089,555	26,236	136,761	941,011	2,045,506	6.4%
	配賦	75,893	(205,915)	2,338,405	(17,641)	128,910	941,011	3,260,663	10.2%
	配-直	213,878	804,157	248,850	(43,877)	(7,851)	0	1,215,157	+3.8%
	乖離率	155%	-80%	12%	-167%	-6%	0%	59%	59%

直課方式と配賦方式による利益・利益率比較(小児科)(単位:円)

*病理検査および、内視鏡検査は(収益・原価0により除外)

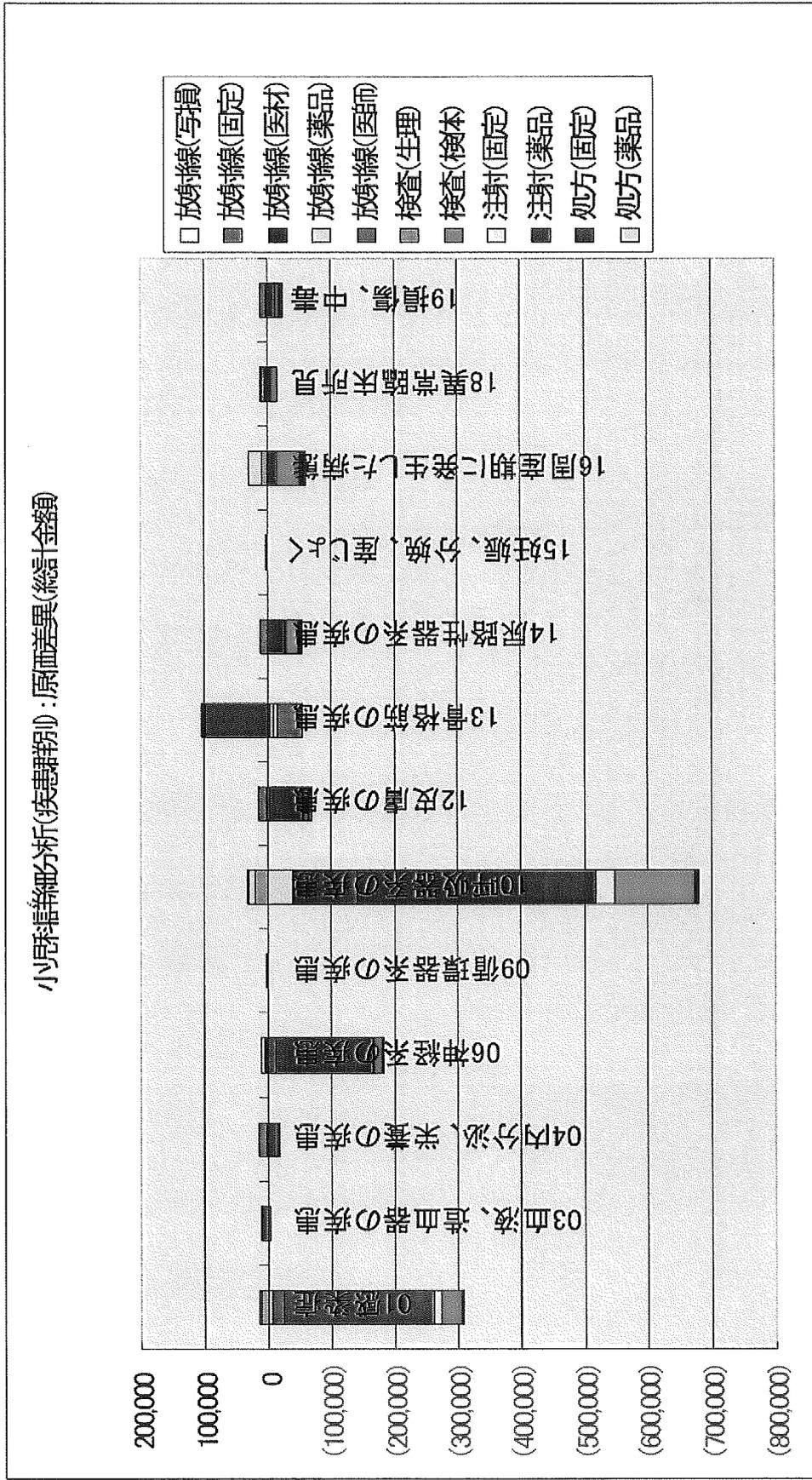
2-3-2. 利益・利益率比較(小児科)



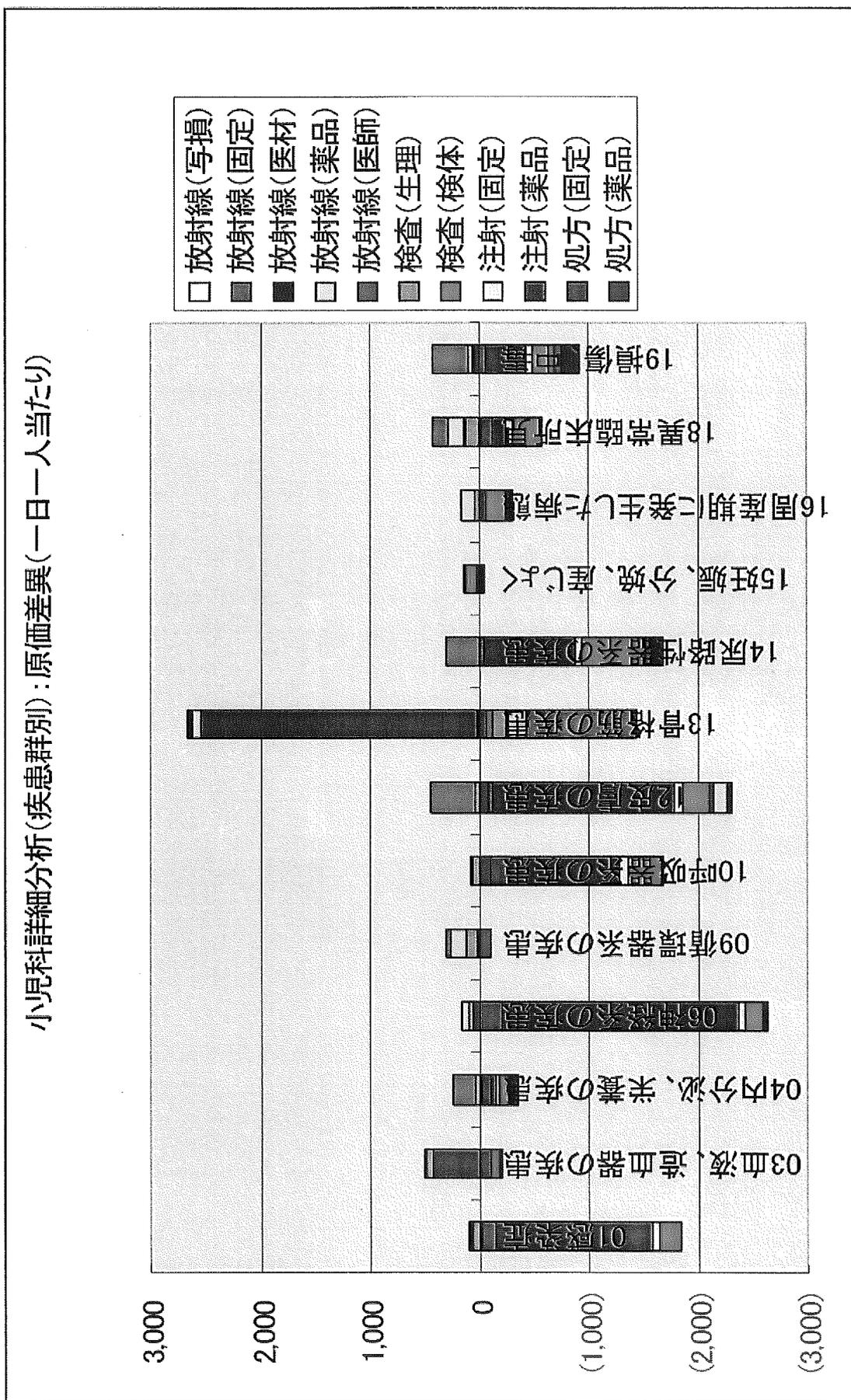
2-3-3. 疾病群別比較(ICD10大分類)

- 全体の傾向
 - 全体の症例数が少ないため、症例個別の数値の影響力が大きい。
 - Ex. 骨格筋の疾患の構成は特徴的だが、症例数が少ないため個別症例の影響だと考えられる。

2-3-3-1. 疾患群別比較：原価差異(総計金額)

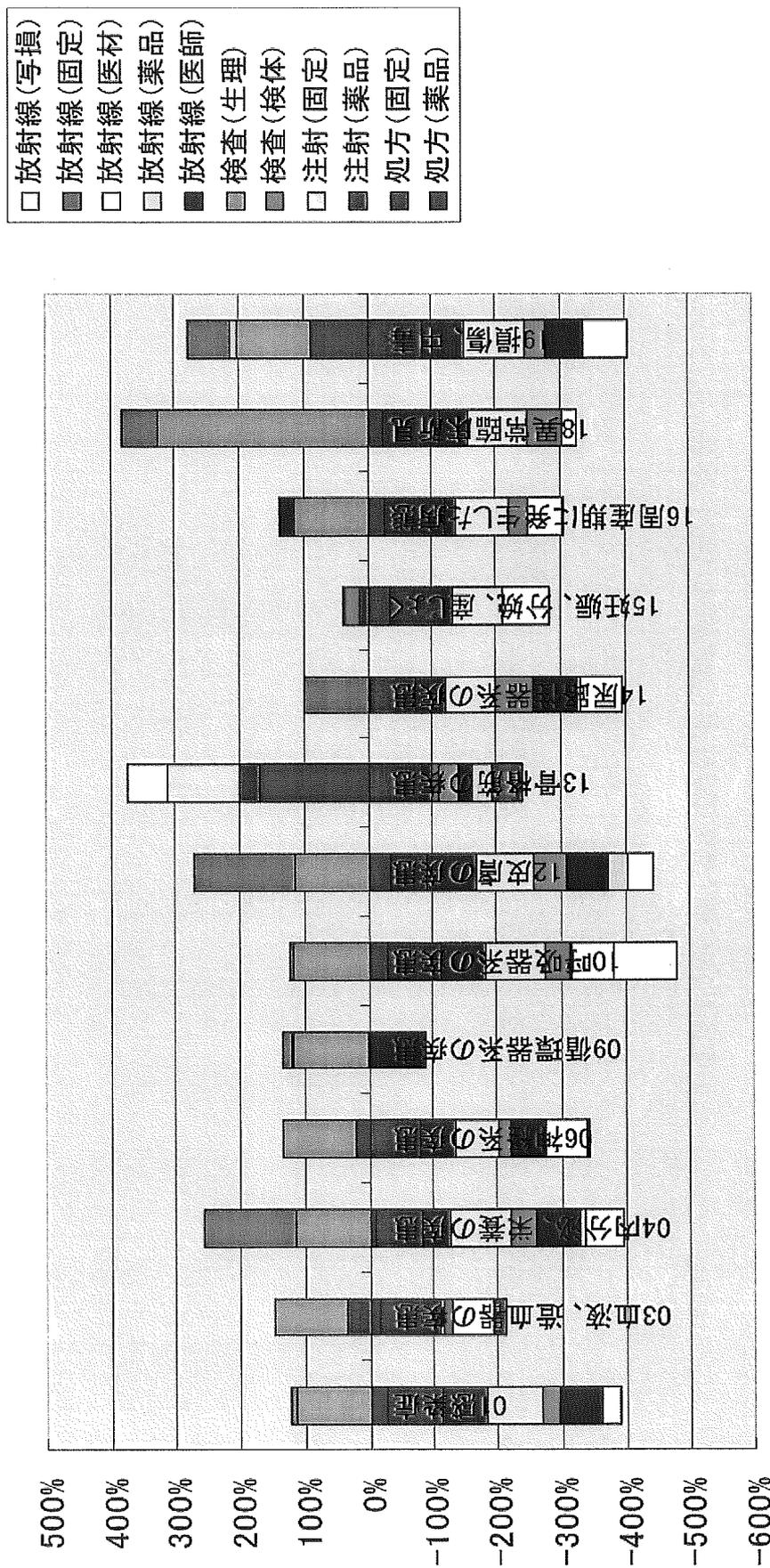


2-3-3-2. 疾患群別比較：原価差異（一日一人当たり）

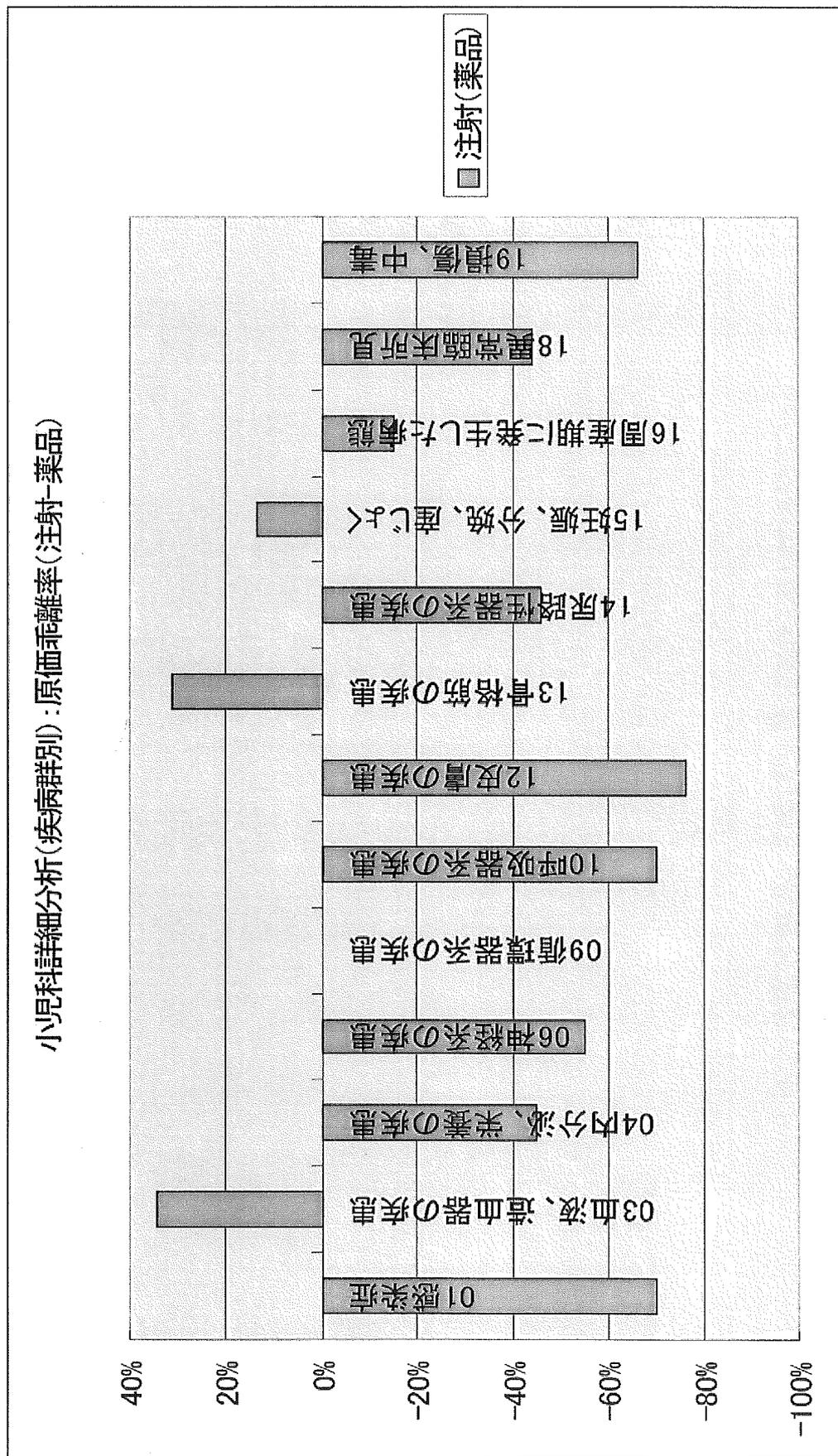


2-3-3-2. 疾患群別比較：原価乖離率(%積み上げ)

小児科詳細分析(疾患群別)：原価乖離率(%積み上げ)



2-3-3-2. 疾患群別比較：原価乖離率（注射-薬品）



2-3-4. 年齢群別比較

- 全体の傾向
 - 収益比配賦と直課方式との原価差異では注射が顕著になっている。
- 注射(薬品)
 - 原価の乖離率は、0-9歳*までが高く、10歳以上で低くなっている。
 - *1-4歳の乖離率は39%であるが、これは特殊な症例が一例含まれているため。
これを抜いた乖離率では71%となっている。
 - 3-2-5 小児科詳細分析(年齢群別):原価乖離率参考値(注射-薬品)1-4歳群補正参照
 - 注射医薬品の問題点が結果として現れている